

太陽光発電の確実なる主力電源化に向けて

一般社団法人 太陽光発電協会 代表理事

平野 敦彦

ソーラーフロンティア株式会社



太陽光発電による持続可能な社会

分散型という特徴を生かせる太陽光発電は
世界中に電気を供給できる有力電源である

まだ電気が行き届いていない地域も
アジア・アフリカ地域を中心に
約12億人が無電化地域に



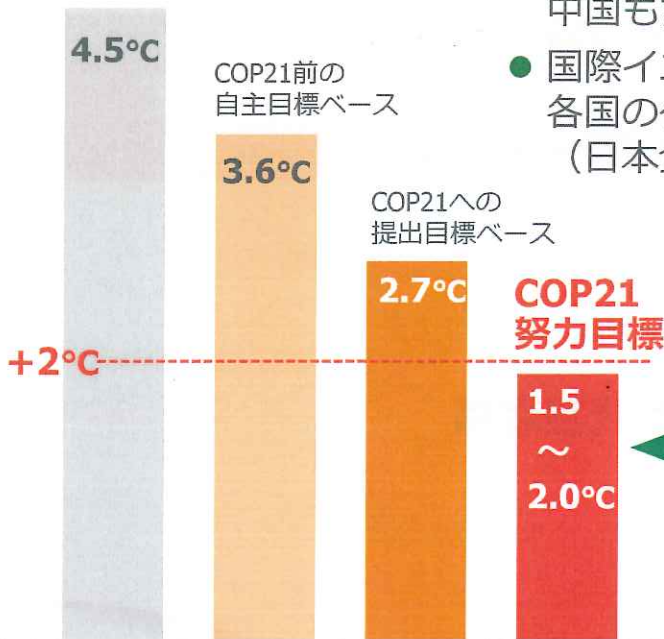
6.64 x 9.54 inch photo quality
image available in the book:
"The Universe: 365 Days"

気候変動対策における再エネの意義 (COP21における合意)

Average warming© projected by 2100



現状維持の場合



- 英・仏・印がガソリン車の禁止を表明
中国も言及し、EVシフトが一層加速
- 国際イニシアチブRE100に
各国のグローバル企業130社が加盟
(日本企業も6社が加盟)

再生可能エネ
大量導入の
可能性



Source: Climate Action Tracker, data compiled by Climate Analytics, ECOFYS, New Climate Institute and Potsdam institute for Climate Impact Research.

太陽光発電の主力電源化 (PV OUTLOOK 2050)

2030年時点での太陽光発電稼働量 **100GW**

(国内総発電比11%)

2050年時点での太陽光発電稼働量 **200GW**

(国内総発電比18%)

Energy Security
自給率の向上

3E

Economic Efficiency
経済効率性向上

Environment
環境への適合

+2S

Safety

安全性

Sustainability

持続可能性



太陽光発電の主力電源化 (PV OUTLOOK 2050)

2030年時点での太陽光発電稼働量 **100GW**

(国内総発電比11%)

2050年時点での太陽光発電稼働量 **200GW**

(国内総発電比18%)

「脱炭素社会」
の実現

「エネルギー自給率」
の大幅向上

「持続可能な社会」
の実現